

井川・勘行峰

リバウエル井川スキー場に隣接した、このコースは標高 1000m以上の森に囲まれた自然豊かな地域で、勘行峰（標高 1449.6m）の展望台からは、南アルプスの山々や井川湖が望めます。そこに分布する動植物も、市街地周辺では見ることのできないものが多く生息しています。

しょくぶつ

● アキノキリンソウ



秋に山地や早稲などで黄色の花を咲かせるキリソウ科の植物です。別のグループのキリンソウは、5～6月に黄色の花を咲かせます。

● ノリウツギ



アジサイの仲間の落葉低木で、7～9月に開花します。かつて製紙用に、樹皮から糊（のり）を採取したことに由来します。

● イケマ



7～8月に山地の林のまわりや草地で白い花を咲かせます。アユ草文では根を煮く、煮る等の後、食用・薬用としますが、有毒植物なので注意が必要です。

● ヒメオトギリ



水田周りや休耕田、湿地に生育する一年草または多年草で、7～8月に黄色の花を咲かせます。

● オトコエシ



秋の七草の一つのオトコエシは、楚々とした姿に似て、大柄で、野生的に咲くことから、オトコエシとよばれるという説があります。

● ミヤマガマズミ



山地の林のまわりに生育する落葉低木で、5～6月に枝先に白い花を半球状に密生させ、9～10月に熟す果実は緑から赤色です。

● ゴヨウアケビ



アケビとミツバアケビの中間的な雑種と考えられています。つる性の落葉木で、4～5月に紫から緑色の花を咲かせます。

● リョウブ



丘陵～山地の尾根などに生育する落葉低木で、夏に白い花を咲かせます。まだら模様の樹皮が特徴です。

きのこ

● アイシメジ



ブナ林などで植物と共に生えています。ひたは青、裏のひたは白色ですが、用は褐色で、柄の表面は褐色の細点におおわれています。

● ツガサルノコシカケ



マツ、モミなどの枯れ木を分解するキノコです。傘表面は赤褐色～黒褐色。多年生で大きくなります。

● オキナクサハツ



ブナ科樹木と共生しています。ひたは白色ですが、柄の表面は褐色の細点におおわれています。

● ニカワハリタケ



山地～亜高山帯で針葉樹の切り株などを分解するキノコです。ゼラチン質で傘の裏は針状です。

● カバイツルタケ



主にブナ科樹木と共生しています。柄につばはなく、つばは袋状で、傘の色は褐色（ひたは白）です。

● キホコリタケ



低地～山地の林内地上で腐葉などを分解するキノコです。ホコリタケに似ますが、表面は黄色になりほろろです。

● タマゴタケ



山地～亜高山帯でマツ科、ブナ科樹木と共生しています。ひたは黄色、柄も黄色と橙色の点々だらです。

● ムラサキアブラシメジモドキ



マツ科とブナ科樹木が共生する林に生育するキノコです。傘も柄も紫色で粘液に包まれ、ひたは褐色になります。

こうよう

● オオイタヤマメイゲツ



山地に生育するカエデ科の落葉高木で、若い葉の形を満月に例えたものと考えられます。紅葉は、赤色と黄色の間の色合いです。



夏

秋

● オオモミジ



日当たりの良い斜面に生育するカエデ科の落葉高木で、イロハモミジより大きな葉をつけます。



紅葉

● コミネカエデ



紅葉の道

● ホソエカエデ



どうぶつ・とり

● ヤマドリ

留鳥



オスは、尾が非常に長く、全長 1m 25cm くらいあります。日本の固有種で、山地に生息します。羽を震わせて音を出します。

● ジョウビタキ

♀



全長 14cm くらいで、頭部は黒褐色でまゆのあたりは白く、喉が青い。本州では冬に見られます。

● ウグイス

留鳥



全長 15cm くらいで、茶褐色をしています。低地から山地の草むらに見られ、鶯歌調に「オオ」「ホー・ホウキョウ」と鳴きます。

● ルリビタキ

♀



全長 14cm くらいで、オスは頭部から背中、尾が青色です。井川周辺では、夏に見られます。

● イカル

留鳥



全長 23cm くらいで、大きな太い黄色いくちばし特徴です。山麓や平地の林の中におり、「キー・キー」と鳴きます。

● エナガ

留鳥



全長 13cm くらいで、平地から山地の林にすみ、冬は群れて「ジュリ・ジュリ」と鳴きながら移動することが多いです。

● ミソサザイ

留鳥



全長 11cm くらいで、非常に小さな鳥です。溪流のそばで、大きな声でさえずります。冬は雄におびてくることもあります。

● メジロ

留鳥



全長 12cm くらいで、体の上面は黄緑色で、喉のまわりは白色、胸は黄色です。

● ゴジュウカラ

留鳥



全長 13cm くらいで、木の幹の表面に止まり、上下に翳り下し、樹皮の隙間の昆虫を捕まえます。

● コガラ

留鳥



全長 12cm くらいで、頭部が黒く、ペー・ペーと鳴きながら、山地に見えます。山地にすみ、冬は平地でも見られます。

● アカハラ

夏鳥



全長 24cm くらいで、ほぼ全身が赤褐色で、腹部が白く、尾は黒い。この名前がつけられました。「キヨロ、キヨロ」と鳴きます。里では冬に見られることも多いです。

● シロハラ

冬鳥



全長 24cm くらいで、ほぼ全身が赤褐色で、腹部が白く、尾は黒い。この名前がつけられました。「キヨロ、キヨロ」と鳴きます。里では冬に見られることも多いです。

● ニホンザル



オスは体長 50～60cm くらいで、顔とお尻が赤いです。日中に群れて行動し、雑食性で果実や昆虫などを食べます。

● ニホンリス



体長 20cm、尾長 15cm くらいで、尾は黒い。山地の森林から、山地の松林にすみます。植物食で、クルミや果実を食べます。

● ニホンツキノワグマ（要注意）



体長 1m～1m 50cm くらいで、森林に生息する大型哺乳類で、冬は冬眠します。人間の被害が増え、十分な注意が必要です。

● ニホンジカの子



ニホンジカの子は生まれてすぐの頃は、動かずにじっとしています。足つちをもちとして、驚かせないようにしましょう。

むし

● ウラギンヒョウモン



5月下旬から成虫が出現し、ノアゲハなど花の蜜を吸います。市街地でもよく見られ、山地の林内でも多く見られます。

● ミドリヒョウモン♀



後ろは側面に黄褐色で、縦長の黒い帯が特徴です。大型のヒョウモン・チョウの仲間です。山地の林内でも多く見られます。

● ツマグロヒョウモン♀



はねを広げると 7～8cm くらいの紫色のヒョウモンのアゲハの仲間です。成虫は春～秋の終わりまで見られます。

● カラスアゲハ



はねを広げると 10cm くらいの大型のアゲハの仲間です。はねの裏に黒い横帯があります。成虫は 4～8月に3回ほど発生します。

● キペリタテハ



赤色の翅の裏に黄色の斑が特徴です。アゲハの仲間です。山地の森林から、山地の松林にすみます。植物食で、クルミや果実を食べます。

● ミヤマカラスアゲハ



カラスアゲハをよりメタリックにしたきれいなアゲハの仲間です。成虫はカラスアゲハ、キペリタテハなどを食べます。

● オウラギンシジミ



1000m ほどの山地にすみ、7月中旬～8月上旬にかけて成虫が現れます。成虫は 3～11月に複数回発生します。幼虫はスミシの仲間を食べます。

● モンキチョウ



黄色地の翅に黒色の縦の帯があるアゲハの仲間です。成虫は 3～11月に4～5回発生します。

● ヒサマツミドリシジミ



かつて幼虫の食樹が「ヒサマツ」と呼ばれていました。谷で発生して山の頂上まで見られます。

● キシタトゲシリアゲ



前ばねの長さ 1.3cm くらい、シリアゲの仲間です。昆虫などの死がいや、果実などを食べます。

● ウラナシジミ



前ばねの長さは 1.5～2cm くらい、小さいチョウです。はねの裏に黒い横帯があります。

● シュウジナガカメムシ



体長 1cm くらいで、黒と橙色のはっきりとした模様のカメムシです。背に橙色の十字形の帯があります。主にカブトムシの汁を吸います。

● ヤマトシジミ



はねを広げても 3cm に満たない小さいチョウです。人家まわりでもよく見られます。成虫は 3～11月に発生します。

● ミナミトゲヘリカメムシ



南方系の大型のカメムシで、体長 1.3～1.8cm くらいです。カキやカンヅの果実の汁を吸います。

● ニフハンミョウ



2cm くらいのハンミョウの仲間です。オリーブの樹にすみ、成虫は 4～10月に発生します。

● クサギカメムシ



山野に普通に生息するカメムシで、体長 1.3～1.8cm くらいです。幅広い植物につき、果樹や野菜の害虫としても知られています。